子どもをとりまく まちの環境から 考えてみると…

特集

子どもから考える 世田谷UDスタイル

より多くの利用者の視点で

バリアフリーというと、今までは障害者や高齢者のことが中心でした。しかし「誰もが使いやすい」というユニバーサルデザインの考え方では、もっと様々な利用者を想定しています。

子育て環境をめぐる様々な課題

たとえば、子ども連れで外出する人が増えてきた結果、ベビーカーで乗りやすいバスや電車、子ども連れが入りやすいお店、トイレや授乳室なども増えてきました。

しかし一方で、公共交通機関でのベビーカーの利用に関する意識の差が顕在化し、「我が物顔で乗っている」「小さい子どもを連れて外出なんて非常識」といった声もあります。

公共交通機関にかぎらず、子どもの声がうるさいという理由で公園や保育園でのトラブルが起きた、といったニュースも耳にしたことがあるのではないでしょうか。

子どもと子育てをとりまく環境から考えるUDスタイル

子育てに厳しい環境が気になる一方で、子育て中の人を支える動きも増えています。

『世田谷UDスタイル』第1号ではそんな動きの一端に触れながら、その動きをさらに広げていくために、一人ひとりができることを探り、紹介します。

公共交通機関でのベビーカー利用にあたってのお願いポスター(左)と、共通ベビーカーマーク(上)

国土交通省での検討

国土交通省は平成26年3月、学識経験者や鉄道会社、子育て支援団体などと協議し、公共交通機関でのベビーカーの安全で快適な利用を進めるために、「ベビーカー利用にあたってのお願い」と統一的なマークを決めて、広く呼びかけていくことにしました。子育てを社会全体で見守るためにも、こうした考え方の周知を広げ、ベビーカーを使う人も、周囲の人も、お互いに理解を深めていくことが大切です。